

令和2年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		教務部 令和2年度重点目標												
		項目1	目標	コロナ禍によって変動した学校や社会の環境に対応した学校制度の整備をおこなっていく										
重要度	達成度			①教務規程の見直しの中で、様々な評価基準を反映した規定作成を進める										
	項目2	目標	②レポート評価のループリック作成など客観的な評価方法を教科で進めてもらう											
			③生徒が自主的に学べる授業の工夫を教科で進めてもらい、生徒の取り組みを記録していく仕組みを工夫していく											
[4]大変に重要	[4]75~100% (ほぼ達成した)	項目3	目標	コロナ禍によって変動した各種行事の在り方を検討し、高2でのグローバルスタディツアーやユネスコスクールとしての取り組みなどを生かす工夫をはかる										
				①学校全体、各学年で行ってきた宿泊行事や情報教育などのプログラムの再検討を行う										
[3]やや重要	[3]50~74% (まあまあ達成した)	項目4	目標	②GLCを中心に進めてきた様々な問題に目を向けるプログラムや総合の在り方などを結び付け、持続可能なものにしていく										
				他分掌やグローバルセンターとの連携を進め、大妻中野らしい制度作りを進めていく										
[2]あまり重要でない	[2]25~49% (あまり達成できなかつた)		達成方法	①学校で行われている様々な行事の見直しを進め、円滑な運営のために効率化をはかる										
				②新しく始まった行事の運営などを通じて、今までの行事の交通整理をはかっていく										
[1]重要でない	[1]0~24% (ほとんど達成できていない)		目標	新カリキュラムへの移行がスムーズに進められるように工夫していく										
				①学校として育てたい生徒像が明確となるようなカリキュラム作りを教育課程委員会とともに進めていく										
		項目1		項目2		項目3		項目4						
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度					
部署コード/平均		3.93	2.71	3.43	2.57	3.43	2.57	3.86	2.57					
1		4	3	3	2	3	2	3	2					
2		4	2	4	2	3	2	4	2					
3		4	3	4	3	4	3	4	3					
4		4	3	4	4	4	4	3	2					
5		4	4	4	4	4	4	4	4					
6		4	4	3	3	2	3	4	4					
7		4	3	3	2	4	2	4	3					
8		4	3	3	3	3	3	4	3					
9		4	3	4	3	4	2	4	3					
10		4	2	3	2	3	2	4	2					
11		4	1	3	1	3	2	4	1					
12		3	2	3	2	4	2	4	2					
13		4	2	3	2	3	2	4	2					
14		4	3	4	3	4	3	4	3					
<取組状況・次年度への課題など>														
2020年度は緊急事態宣言が2度出されるという特殊な状況であった。														
2019年度の学年末考査が実施されなかつたことで、様々な課題や提出物などへの「評価のあり方」など、考査に頼らない「評価の仕組み」を考えて「評価」につなげた。この取り組みが生かされ、2020年度についても、オンライン授業やオンライン中の課題や提出物で「評価」が可能となり、考査が実施できない状況下においても「評価」は可能であるという意見がいくつかの教科から聞こえてきたことは成果であろう。すべての教科で様々な工夫をしてもらい、「新しい評価の在り方」を模索し続けていきたい。														
オンラインでの課題作成や「評価」に関しては、PMTやICT委員会、企画室などと連携できた。オンライン授業の方法や頻度、zoomやYouTubeの活用方法の研究から提示、動画配信のレクチャーなどを早いうちに行えたので、学校全体でオンライン授業への切り換えが早いうちにできた。														
項目1については各教科でロイロ授業の工夫、YouTubeへの配信など様々な取り組みが行われ、生徒の提出する課題や成果物にも多様性が見られた。先生方のYouTube配信教材の数量も増えてきているので、今までの教材などとともに、さらに工夫を加えて昇華できるようにしていきたい。その上で評価の仕方も多様性が認められるものを求め、教員全体の指導の向上につなげていきたい。														
項目2については予定していた宿泊行事や特別プログラムなどがなくなるなど、コロナ禍への対応が主となったことは残念だが、オンラインの併用など、新しい方向性が出されている。またGLC元年の学年ではオンラインで様々な学校とつながることが増えており、成果物や取り組んだ内容の共有など、GLC外のクラスへの波及が始まっている。新しい指導要領や新しい大学入試形態をさらに研究しながら、生徒たちが様々なプログラムへ参加しやすい環境をつくりていきたい。														

令和2年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		進路部 令和2年度重点目標(学力向上に向けて)											
		項目1		目標		コロナ禍のなか、生徒が自ら学ぶ授業の実践をすすめる。							
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75~100% (ほぼ達成した) [3]50~74% (まあまあ達成した) [2]25~49% (あまり達成できなかつた) [1]0~24% (ほとんど達成できていない)	項目2		目標		①「妻中サクセス」の身体化をすべての教育活動で図る。 ②タブレットや電子黒板などのICT機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。 ③授業の6要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業の実践をする。								
	項目3		目標		コロナ禍の中、生徒の進路意識改革をはかる								
	項目4		目標		①建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。 ②生徒及び保護者を対象とした進路ガイダンスを計画的に実施する。								
	項目5		目標		③各種検定試験の積極受検を奨励する。								
	目標		達成方法		コロナ禍の中、中学の基礎基本事項の定着をはかる。								
項目1		項目2		項目3		項目4		項目5					
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度		
部署コード/平均		3.60	2.90	3.70	3.00	3.60	2.50	3.70	2.60	3.70	2.50		
1		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
2		4	3	4	4	4	4	3	4	3	3		
3		2	2	4	2	3	1	4	1	4	3		
4		3	2	3	2	3	2	3	1	3	1		
5		4	3	3	2	4	3	4	2	4	2		
6		4	3	4	3	4	1	4	3	4	1		
7		4	4	4	4	3	3	4	4	4	3		
8		4	3	4	3	4	2	4	3	4	2		
9		4	3	4	3	4	2	4	2	4	4		
10		4	3	4	4	4	4	4	3	4	3		
<取組状況・次年度への課題など>													
コロナ禍で、対面による学習支援ができなかつたことは大きなダメージであった。特に、高校3年生に対する受験指導が例年になく手薄となってしまった。 ただ、そのような状況においても、各教員がオンラインでの学習援助を工夫して実施できたのは良かった。早くからICT機器を導入していたことが、オンライン授業のスムーズな実施に繋がつた。また、数学科を中心にスタディサプリを日頃から利用していたことで、生徒は自宅学習期間も有効に活用することができた。													
今後、コロナが収束しても、この期間に学んだ様々なことは活かしていきたい。特に、保護者対象進路ガイダンス等は都合で出席できない保護者も多いので、今後もオンライン配信を中心に実施していく予定である。ただし、対面の良さもあるので、希望者の面談等は実施したい。													
また、オンラインの講習等も各教員の創意工夫で質の高いコンテンツを充実させていきたい。													

令和2年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

令和2年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		入試広報部 令和2年度重点目標											
		項目1		目標		本校の実践・取り組みを広く、正確に外部に伝える。							
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75~100% (ほぼ達成した) [3]50~74% (まあまあ達成した) [2]25~49% (あまり達成できなかつた) [1]0~24% (ほとんど達成できていない)	項目2		目標		①COVID-19の影響下での新たな広報の仕方を検討し、積極的に取り組む ②教員全員による塾訪問を継続。訪問のタイミングで伝えるべき内容を明確にする。 ③COVID-19下での、新たな広報戦略を探り、実行する。							
		項目3		目標		Webサイト、ネットを利用した情報発信を効果的に行う。							
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75~100% (ほぼ達成した) [3]50~74% (まあまあ達成した) [2]25~49% (あまり達成できなかつた) [1]0~24% (ほとんど達成できていない)	項目4		目標		①ホームページの情報updateを定期的かつ細やかに行う。 ②web説明会、online説明会などリモートでの学校説明を導入する。 ③WEBサイトやアプリ等のネット媒体を使った広報ツールを活用する。							
		項目1		項目2		項目3		項目4					
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度				
部署コード/平均		3.91	2.91	4.00	3.27	3.82	2.73	4.00	3.73				
1		4	3	4	3	4	2	4	4				
2		4	4	4	3	4	2	4	3				
3		4	3	4	4	4	3	4	3				
4		4	3	4	3	4	3	4	4				
5		4	2	4	3	4	2	4	4				
6		4	3	4	3	3	3	4	3				
7		3	2	4	3	4	3	4	4				
8		4	3	4	4	4	2	4	4				
9		4	2	4	3	4	3	4	4				
10		4	3	4	4	4	4	4	4				
11		4	4	4	3	3	3	4	4				
<取組状況・次年度への課題など>													
項目1 COVID-19の影響で、塾訪問をはじめ、合同説明会の相次ぐ中止など、当初の予定が大きく変わってしまった。加えて、校内説明会に関しても、すでに決まっていた2学期の体育館改修工事が大きな足かせとなつた。こうした中、web説明会、施設見学会などの新しい企画を試みることで、来校者の不足分を補つた。													
項目2 年度当初の休校期間中にはHPや中学受験関連のwebサイトを活用し、休校期間中の本校の対応を発信した。学校説明会もweb説明会の企画、またweb説明会とweb開催となった文化祭とを結びつけるなどの工夫をした。 COVID-19のため、説明会などの予定が当初から変更を余儀なくされたり、新規のイベントを企画したりしたので、これらの内容をこまめにアップデートし、閲覧者に情報を流した。このほか、動画のアップやオンライン説明会の実施などにより、ネットを活用した広報活動には例年以上に取り組んだ。													
項目3 海外在留者対象のオンライン説明会を3回実施、また入試も北米入試を新たに追加した。受験者数は昨年並みではあったが、受験者層が上がったこともあり、手続き率が予想よりも低かったことが反省点といえる。													
項目4 入試におけるCOVID-19対策を早くから検討し、逐次HPを通じて本校の対応を受験者にお知らせした。また、2月の入試期間中にCOVID-19に罹患した場合を考慮して追試験も実施をした。 帰国入試・2月入試ともに大きな問題はなく、無事に入試を運営できた。 来年度に向けて引き続き、オンライン説明会の実施などにより、ネットを活用した広報活動には例年以上に取り組んだ。													

令和2年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		企画室 令和2年度重点目標													
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75~100% (ほぼ達成した) [3]50~74% (まあまあ達成した) [2]25~49% (あまり達成できなかつた) [1]0~24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	学校を生徒にとっての「成長の場」にするための授業・考査・評価デザインを企画実施する。											
			達成方法	①コロナ禍において実施したオンライン在宅学習のスタイルを検証しながら、学校における授業の意義や学校生活のもたらす教育効果についてPMTと連携して再確認する。その検証結果を学校全体で共有することで、大妻中野としての新しい学習スタイルを発信する。 ②進路部のすすめる「妻中サクセス」を意識した授業のフレームワークを研究・提示し、教員相互の授業研究や授業見学を促進できるような機会をつくる。また、全教科の定期考査検証を進路部と連携しながら、生徒の力を伸ばすような評価方法の提案を準備する。 ③「大妻中野で育てたい力」を設定して、学校行事などを勘案しながら6力年を通じて配置する。そのルーブリックをカリキュラムマネジメントコアチームと連携して作成し、「Challenge/Construct/Create」を軸とする教育プログラムを整理していく。											
			目標	継続していく大学入試改革に向けての対応と「e-ポートフォリオ」の発展的継続活用を生徒・教員ともに意識づける。											
項目2	達成度 [4]75~100% (ほぼ達成した) [3]50~74% (まあまあ達成した) [2]25~49% (あまり達成できなかつた) [1]0~24% (ほとんど達成できていない)	項目3	達成方法	①項目1であげた妻中ルーブリックにもとづいて「何を記録するべきか」を整理し、全員に共通する記録項目と、それぞれの活動でつけられる「能力」を一覧にまとめる。振り返りと改善のPDCAサイクルの「身体化」をすすめる。 ②グローバルセンター・外国語科と連携して、英語4技能に向けた英語活動の充実と全校化を継続する。 ③新学習指導要領に向けたカリキュラムの編成について、教務部・教育課程委員会と連携して企画立案に関わる。外部4技能検定への対応に向けて、外国語科と他教科のクロスカリキュラムを継続して検討する。											
			目標	グローバル校として多様性の受容と自由の相互承認ができる学校にする。											
			達成方法	①大妻中野生にどのようにあってほしいかということについて、生徒部と連携して「Otsuma Nakano Goals(ONGs)【仮称】」を策定する。 ②教員のマインドセットを「ONGs」にフィットするように最適化する。生徒への接し方や課題設定のしかた、部活動の方針などが同じ方向を向くように働きかける。 ③生徒の学びや知的好奇心を向上させるような具体的なしきけを実施する。											
		項目1	項目2	項目3											
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度								
部署コード/平均	3.80	3.00	3.40	2.20	3.60	2.00									
1		4	4	4	3	4	2								
2		3	3	3	3	3	3								
3		4	2	4	2	4	1								
4		4	3	3	1	4	2								
5		4	3	3	2	3	2								
<取組状況・次年度への課題など>															
コロナ禍という特殊な状況の中で、PMT、ICT委員会、教務部と連携をして生徒に対する適切な教育効果を議論しながら、オンライン授業の方法や頻度、zoomやYouTubeの活用方法の研究に取り組んだ。教員も在宅勤務しながら教育活動にあたるという中で、在宅勤務の心得や動画配信のレクチャーなどを適切に行って、全学的にオンライン授業への切り替えを早い段階からすすめることができた。															
項目1については上記のようにおおむね達成できたと考えるが、項目2については学年任せとなり、ポートフォリオのシステムを統一して確立することができなかった。2020年度からキャリアパスポートも課されるようになっているため、本校でもより系統立てていく必要があるが、企画室自体が今年度までであるので、新たにそれを検討していく主体となる部署が必要である。項目3について、グローバルという言葉だけが先走らないように、「英語を話せるようになる」ことだけがグローバルではなく、「多様性を認めること、受容すること」がグローバルマインドセットの根幹であると考えるので、全学的に「脱・一律主義」「脱・予定調和」「脱・正解主義」という考え方を受容し、新しい指導要領や新しい大学入試形態を研究しながら、すべての教育活動を展開していく必要がある。															
各分掌の隙間を埋める潤滑油として、また生徒たちのモチベートなどの即効性のある学習企画など、機動力のある校長直属の部署として設置された企画室は、次年度より発展的に解消し、各分掌がその業務を分担していくことになる。発展的に解消されるということは、企画室設置当初にグローバルに舵を切り、新しいカラーを打ち出していこうとしていた宮沢前校長の目標地点にある程度達したことを意味する。しかし、確実に大妻中野全体の教育活動に対する意識は上がっているが、SGHやユネスコスクール登録など学校のステージも変わり、業務は多岐に及んできているため、学校としての優先順位を全学的な議論の下に話し合い、適切な人的配置を考えながら限りある人的時間的資源を有効に使えるような組織にしていくことが次年度に向けての課題である。発展的に解消し、企画室業務を継続していく各分掌や学年主任チームに、その方向性はしっかりと引き継いでいきたい。															

令和2年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		国際部 令和2年度重点目標											
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75~100% (ほぼ達成した) [3]50~74% (まあまあ達成した) [2]25~49% (あまり達成できなかつた) [1]0~24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	"Otsuma Nakano as School for Global Gateway" - "Beyond School" SGH_Associate 5年間の取り組みを継承し、また、ユネスコ・スクールの初年度として、より一層、Society 5.0 に対応した教育技法を研究するとともに、国内外の様々な組織と連携し、その成果を本校全体への還元を進めていく。それにより、文部科学省へ申請した目標の達成に資する。									
				①ユネスコ・スクール(Unesco School) としての取り組みを具体的に進める。オンラインを活用し、他校と協働したSDGs達成のためのワークショップなどを設定、実施していく。また、その成果を、TEAMSやmanaba、各種会議で配信し校内への浸透を進めていく。									
				②"アウトソーシングとアウトリーチ - Outsourcing and Outreaching " への取り組み。Model UN, HLAB, Henda, WISH, TEDx, SGH Forumなどの国内外の組織と交流し、各種のプログラムの情報提供や参加、企画、実施を進め、その進行状況を共有化できるように校務運営会議で、報告する。また、外国語科、地歴公民社会科を中心に教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒と一緒にファシリティしていく。 今年は特に onlineで、より一層、様々な組織と繋がる。									
		項目2	目標	③"教育コンソーシアム - Creation of an educational Consortium"としての外部機関、大妻女子大学国際センター、英語教育研究所、国内外の専門家、有識者、JSAF、IGS、WCEなどと積極的に連携し、グローバル教育関連情報やプログラムへのサポート体制をさらに充実させていく。									
				本校SGH構想調書にある「留学をしたり、将来、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合では、SGHプログラムの対象となった生徒については、全員がこうしたことを考える生徒になることを目標とする」に向けて、留学する生徒、本校に受け入れる留学生の生徒と海外大学（国際併願）を目指す生徒数を前年度以上にする。									
				①トビタテ！生を筆頭に、留学経験者、海外大学進学者による「エヴァンジェリオン活動」を積極的に行い、留学と海外大学進学の持つ意味を卒業生や経験した生徒からこれからの生徒に伝え、周知できるように、学校のウェブサイトでの発表、説明会の開催などを重ねていく。									
		項目3	目標	②「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB」、「筑波グローバル・リーダーズ・プログラム」、「アメリカ大使館」、「ブリティッシュ・カウンシル」、「オーストラリア各州政府」、「フランス大使館」、「コリブリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などをonlineで積極的に実施していく。									
				③海外大学やSGUに進学した卒業生を積極的に活用し、その経験を在校生に共有できるようにする。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大進学ガイダンスや相談、留学相談などをonlineと対面のハイブリッドで行う。									
				グローバルセンターとして、英語での各種書類の作成などの教務実務、海外大学進学、留学、海外からの編入生受け入れとその後の指導に必要な教育実務を英語で行うシステムと人材の育成を継続してより一層進めていく									
		項目1	項目2	項目3									
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度						
部署コード/平均		3.80	2.80	3.60	2.60	3.80	3.00						
1		3	2	3	1	3	2						
2		4	3	4	3	4	3						
3		4	3	4	3	4	3						
4		4	3	3	3	4	3						
5		4	3	4	3	4	4						
<取組状況・次年度への課題など>													
項目1. Beyond School - アウトリー(他流試合)への取り組みについて: コロナ禍による日常からグローバルなレベルまで、物理的にあらゆる移動と繋がることが制限された中で、あらたにオンラインという形で、Model UN, HLAB, Henda, WISH, TEDx, SGH Forumなどの国内外の組織と交流し、各種のプログラムに生徒がチャレンジし、大きな成果を上げた。また、こうした生徒の活躍を校内外にシェアすることができた。 On siteでの Beyond School ができなかったことで、あらたな online challenge により、さまざまな成果を上げるきっかけとなる年度、本校の取り組みのgame changerとしての年になった。													
項目2. 留学と海外大学進学について: 留学は今年の取り組みで、もっとも大きな制約を受けた分野である。しかし、これまでのトビタテ！生を筆頭に、留学経験者、海外大学進学者による「エヴァンジェリオン活動」はしっかりと行われ、留学経験生徒からこれからの生徒に伝え、周知できるような取り組みが行われた。このグローバル・ロックダウンの状況下であるが、9名の生徒が長期留学を実施。また、「トビタテ！留学JAPAN」の第7期生には17名もの生徒がチャレンジし、8名が書類審査に合格している。「HLAB」もオンラインでのウィンタースクールなどこれまでで参加者は最大になった。海外大学進学への取り組みは、シンガポールの機関やJSAFなどと連携し、年間4回のガイダンスを行った。その成果として、初めて、ヨーロッパの国立大学医学部への進学や世界のトップ大学(アメリカ、イギリス)にチャレンジする生徒が出てくれた。													
項目3. グローバル教育のロジスティクスについて: 今年度は、グローバル教育のロジスティックの面を担当するグローバルセンターのオフィスが立ち上がり、英語での各種書類の作成などの教務実務、海外大学進学、留学、海外からの編入生受け入れとその後の指導に必要な教育実務を英語と日本語で行うシステムと人材が確立し、飛躍的な進歩を遂げた。また、英語母語話者の教員のグローバルセンターのプロジェクトへのコミットもより積極的になり、上記の1, 2, で示した生徒の実績の向上に繋がった。													